



投稿ください。市民の皆さんの意見交換の場がこの市民談話室です。テーマは自由です。あなたの意見を気軽に寄せてください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、大字白根二二三五 白根市役所企画財政課広報広聴係です。

矢部さん一家の一時帰国を振り返って お世話になった多くの人に感謝

古川浩一さん (牛崎・農業・62歳)
マサさん (牛崎・農業・55歳)

この度、矢部良二一家の一時帰国に際しましては、関係者の方々や地元の皆様から多大なご支援、ご指導をいただき、誠にありがとうございました。二月二十九日に六か月間の日本での生活を終え、無事に帰国した次第でございます。

思えば二年前の三月、中国残留孤児肉親捜しの訪日団が、成田に到着したニュースを何気なく見て



2月22日に行われた矢部さん一家の送別会から

いた私の目に、他人とは思えぬ一人の顔がありました。「もしや良二では……」という思いが日一日と深まり、はやる気持ちで代々木のセンターへ向かったのが、もう明日、日本を発つという三月六日でした。

訪日団一行は翌日、帰国しましたが、その後文通を重ねましたところ、家族そろって両親の墓参りを兼ね、祖国日本へ里帰りをしたい旨、希望がありました。私どもも迎えるにあたり、不安な面も多くなりましたが、昨年九月三日、牛崎に家族六人を迎えることができました。

振り返りますと、秋の収穫時には田や畑へ一緒に出かけ、ともに汗を流しました。お正月には日本料理を味わい、お客様が大勢訪れ楽しく過ごすことができました。良二は会社勤めさせていただき、子供たちは慣れない生活のためか一時体調を崩し、病院のお世話になりましたが、すっかり回復して元気に学校へ通い、友だちと遊んだり日本語の勉強をしたり、給食をおいしくいただきました。

成田で別れるとき「帰ったら日本でお土産話を中国の皆さんによろしく伝えてね」と言います。「はい、ありがとうございます」と何度も答えていました。私にとって、この思い出と皆様への感謝の気持ちは、おそらく生涯尽きないことでしょう。紙上をお借りしまして厚くお礼申しあげます。ありがとうございました。

子供の成長を祈って

伸び伸びとやさしい子供に育ってほしい

浅生田宏子さん (上中村・農業・27歳)

私は一昨年に、無事に女の子を出産しました。初めての子供なので、うれしさと胸がいっぱいでした。子供が泣くと母乳を飲ませたり、おむつを取り替えたり、無我夢中で過ごす毎日でした。七か月に寝返りをして、九か月につかまり立ち、一歩、二歩と歩いたときは、子供は大喜びして得意気に歩いていました。また、風邪をひきやすい体質なので、医者にかかればかりました。

今ではもう、一歳九か月になり、一人倍動いて、女の子でもこんなにいたずらをするものかと、感心させられています。私の家は七人家族で、おじいちゃんとおばあちゃんが子供に対して、よい事をしたときはほめてやり、いたずらをしたときは怒ってやってくれるなど、とても協力的です。感謝しています。

社会人としての二年

生き生きとした暮らしを求めて努力

吉田智子さん (平潟・保母・21歳)

私が社会人となって、ちょうど一年たちました。一年前を振り返ると、職場に出て働くということ、初めてなので、希望というよりも不安の方が強かったようです。接すること全てが新鮮であり、戸惑いでもありました。そこには純真で素直な子供たちとの出会いがあり、教えられたことも数多くありました。仕事の上でも楽しいこと、つらいこと、悩んだことも

あります。どんな職業についている人でも、きっと悩みを持つことがあるでしょう。理想を持ち続けることも大切ですが、いつまでも理想を追い求めてばかりいられない気がします。生き生きとした日常生活を送るためには、やはり努力が必要だと思います。今年は二年目なので、もう少し前進したいものです。

雪の日

子ら眠る夢のつづきも雪遊び

須戸圭一さん (庄瀬第六・農業・58歳)

立春を過ぎると、雲一つない朝など決まって野山は凍り付きます。そんな朝、よく信濃川べりを凍み渡りし、柳の枝などを折って遊び興じていたものです。

ギシギシときしむ音を靴の下に聞きながら、得意気に駆け巡りました。積雪のためにどんな枝にも手が届く。好きな枝を折って落とすと、みずみずしい緑の層に生きとし生ける春の息吹を感じたことでした。

あれから数十年。そんな私に小学四年生と一年生の孫、そして、歳の外孫がいます。ドカガの中で

生き方について

身の回りを見つめる自分の生き方

神田晴彦さん (戸頭・団体職員・23歳)

自分がどういう生き方をするのか？—これは私だけでなく青年が持っている大きな問題ではないだろうか。青年—青春というのは人間だけのものだろう。それは大人になる

ための準備期間であり、当然、人生経験が少ないため失敗もするし、また、なんでもないこと(あとで思うことだが)で悩んでみたりする。しかし、失敗しても「いやーど

うもどうも」と頭をかいて許される。それも青年の特権だと思おうし、人生経験の豊富な人から生き方についてのアドバイスを聞いて、それを応用できる。となると、なかなか自分の主張が無いように感じられる。

身の回りのことと自分の生き方(生活)とは、切っても切り離せないことだと思おう。自分の置かれている現状を見つめてみれば、そこから自分が本当に望む生き方を見つけられるような気がする。人生の先輩のアドバイスを聞きながらも、自分で「これだ」と主張できる生き方というのは大してまちがいではないと思う。とりとめもないことを書いて、さっぱり成長していない自分を反省しつつも……。



堤防から見える山並み(庄瀬地内)

市民文芸

川柳

定年へ苦勞刻んだ夫の顔
手袋の中でダイヤが不服そう
四十年溜った涙に孤児は耐え

織田 セツ
佐藤トミノ
竹石 甚五

スタイルに惚れてテニス部に入る
定年のキャリア買われて職に付く
水物を控え目にして嫌く着付け
采配は嫁に任せしておく平和
不況風知らず平和な招き猫
ネクタイをとると平和な顔になる
盗作の虹が真中から崩れ
ふしくれの指が知ってる立志伝
自転車に乗れた日父の手を離れ
カメラ馴れた白鳥がポーズとる
駄々こねる子がお得意の玩具店

今井 タエ
田村 恒夫
中村 尚治
後藤マサノ
西条 ムラ
吉川 彰
高橋祐四雄
山岡 フミ
今井 七郎
長井 徳市
岡村 清

俳句

曾孫の入学祝って桜一枝
対岸の水面に映る猫柳
木蓮のまだ遠慮な迷い詩

短歌

それぞれに一とせの責を酌み交わし
名残の雪は窓をかすめり

大旗 豊治
玉木 長吉
渡辺 勤
中村 京